Univ. of Fukui
Integrated Report
2024
福井大学　統合報告書2024

格致によりて
人と社会の未来を拓く

国立大学法人
福井大学
UNIVERSITY OF FUKUI

発行：国立大学法人福井大学財務部財務課
〒910-8507　福井県福井市文京3-9-1
TEL：0776-23-0500（代表）
URL：https://www.u-fukui.ac.jp/
発行年月日：令和6年12月

CONTENTS

◆理念／学長メッセージ……P1

◆巻頭特集／数字で見る福井大学……P5

◆教育・研究成果……P9

◆各学部・研究科等紹介…P13

教育学部／教育学研究科・福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科

医学部／医学系研究科

工学部／工学研究科

国際地域学部／国際地域マネジメント研究科

医学部附属病院

◆キャンパス環境……P23

◆福井大学のガバナンス体制……P25

◆福井大学基金（羽ばたけ基金）™…P27

◆財務状況・財務諸表……P29

◆公開情報……P35

理　念



格致によりて
人と社会の未来を拓く

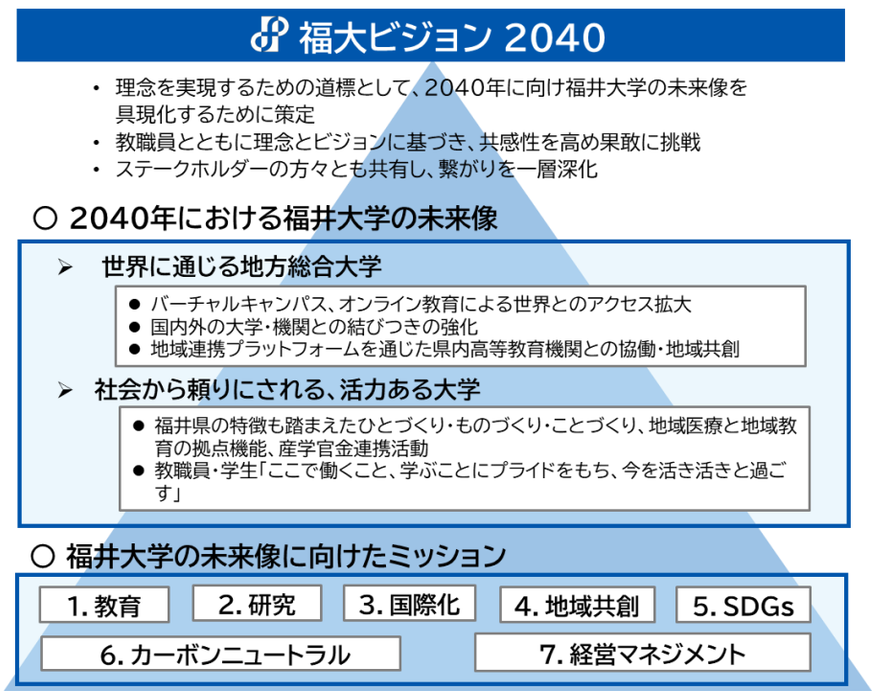
近代福井の礎（いしずえ）を築いた松平春嶽の揮毫による本学所有の「格致」の額面は、同人の歴史的功績を考えれば本学の宝であると言えます。「格致」とは「物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること」という意味です。

本学学生にとっては、学びと人格育成に際し、また教職員においては、研究・教育・地域貢献等で自らの指針となる語句です。我々は、この語句を旨とし、県内より世界に至る様々な地域において、そこに集う人、ならびに社会の未来を拓くことに主体的にかかわり、貢献することを目指します。

福大ビジョン２０４０

この度、本学の理念を実現するための道標として、2040年に向け、福井大学の未来像を具現化するため「福大ビジョン2040」を策定しました。全教職員とともに理念とビジョンに基づいて、共感性を高め、果敢に挑戦していくものです。そして、地域の方々、同窓会などとともに、新たな未来を拓くことを嘱望します。

ビジョンに示した2040年は先のことにも見えますが、社会の変革期に合わせて、本学の力を最大限に発揮するために、重要な目標地点になります。「福大ビジョン2040」は、地域の方々、同窓会、産業界、医療界、教育界、自治体、国等のステークホルダーの方々とも共有したく、本ビジョンを通じて一層の繋がりを深めていく所存です。



学長メッセージ

変動の激しい時代に先進する福井大学を目指して

本学では、福井の地より、世界の様々な地域において、そこに集う人と共に、持続可能な社会の実現に向けて、新たな未来を拓くことを目指しており、本学の存在意義と在り方を表した「格致（かくち）によりて　人と社会の未来を拓（ひら）く」を理念として掲げております。また、本学の理念を実現するための道標として、2040年に向け、福井大学の未来像を具現化するため「福大ビジョン2040」を掲げております。これを重要な目標地点として、「世界に通じる地方総合大学」「社会から頼りにされる、活力ある大学」の実現に向けて、将来にわたり、地域の知の拠点としての責務を果たせるよう、果敢に挑戦していきます。

さて、北陸新幹線福井・敦賀までの延伸を受け、今まで県民の誰にとっても遠かった首都圏との距離感が短縮化されることで、学生も含め人の交流が大いに活性化しています。対面での交流だけでなく、コロナ禍で発達したオンライン講義システムや、Web面接、リモート会議といった習慣が定着し、多様なコミュニケーションのスタイルが共存する時代にもなりました。こうした変化に対応し、2024年1月に卒業生同士、卒業生と在校生を繋ぎ、SNSで自由に交流できる「福大プラットフォーム」の運用を開始するとともに、2024年9月には学部や年代を超えた同窓会組織「福井大学校友会」を設立しました。これにより、これまで以上に、ステークホルダーの皆様との連携・交流を深め、「学びの母港」を地域に構築、展開することで、本学の発展はもちろん地域・社会の活性化に貢献していく所存です。



一方、国立大学法人を取り巻く現在の経営環境は、少子化、国による大学予算の削減、諸物価の高騰等により非常に厳しい状況が続いております。このような中、本学の各分野におけるミッション、ひいては本学の未来像を実現するためには、今まで以上の運営の効率化、研究成果の向上を図っていく必要があります。

この「統合報告書2024」は、財務諸表等の分析を通して業務の効率的かつ効果的な運営に活用するとともに、本学と様々な形で関わり、またご支援頂いているステークホルダーの皆様に本学の取組や財務状況へのご理解とご協力を深めて頂くことを目的として作成いたしました。

本報告書が、福井大学に対するご理解の一助となり、今後とも本学に対し、皆様からのさらなるご支援ご助言を賜りますよう、お願い申し上げます。

国立大学法人福井大学　学長
上田孝典
Ueda Takanori

沿　　革

文京キャンパス

1949.5
福井大学発足
学芸学部、学芸学部附属小・中学校、工学部設置

1956.4
工学専攻科設置

1966.4
学芸学部を
教育学部に改称

1993.4
大学院工学研究科博士後期課程設置、
技術部発足
1999.4
教育学部を教育地域科学部に改組
遠赤外領域開発研究センター設置

2002.4
アドミッションセンター設置
2003.10
旧福井大学と旧福井医科大学が統合
新福井大学が開学
2004.4
国立大学法人福井大学が発足、
福井大学を設置
大学院工学研究科に独立専攻設置
2007.11
産学官連携本部設置
2009.4
附属国際原子力工学研究所設置

2012.3
附属国際原子力工学研究所を
敦賀市に移転
「敦賀キャンパス」開設
2016.4
教育地域科学部を教育学部に改称
工学部8学科を5学科に改組
国際地域学部国際地域学科設置
2019.4
繊維・マテリアル研究センター設置
地域創生推進本部設置

2020.4
国際地域マネジメント研究科
（専門職大学院）設置
2021.4
総合教職開発本部設置、総合戦略室設置
2021.5
リカレント教育推進本部設置
2021.7
データ科学・AI教育研究センター設置
2022.4
社会共創機構設置、SDGs推進室設置
2023.4
カーボンニュートラル推進本部設置
2023.11
ダイバーシティ推進センター設置
2024.4
グローバル・エンゲージメント推進本部設置

1940～ 1950～ 1960～ 1970～ 1980～ 1990～ 2000～ 2010～ 2020～

松岡キャンパス

1978.10
福井医科大学設置

1980.4
福井医科大学開学
1983.4
医学部附属病院設置

1990.6
救急部設置
1994.5
高エネルギー医学研究
センター設置
1999.4
リハビリテーション部設置

2006.4
臓器別診療科体制に移行
（17診療科を25診療科に）
2007.4
治験・先進医療センター設置
2009.4
遺伝診療部、
臨床教育研修センター設置

2012.4
子どものこころの発達研究センター設置
2012.8
福井県の総合周産期母子医療センターに指定
2014.9
医学部附属病院新病棟運用開始
2018.4
脊椎脊髄ユニット外来開設
2018.10
福井県アレルギー疾患医療拠点病院に指定
（健第953号）　がんゲノム外来開設

2020.4
小児外科開設
2021.4
脳脊髄神経外科を脳神経外科に改称
2021.10
多用途型トリアージスペース設置
2022.4
高度生殖医療センター設置
2023.4
高度被ばく医療支援センター設置
2023.9
福井県摂食障がい支援拠点病院に指定

巻　頭　特　集

工学部創立100周年

工学部は、令和5年12月に前身の福井高等工業学校から創立100周年を迎え、創立100周年記念事業を進めてきました。

その一環として、令和6年7月20日に創立100周年記念大会を挙行し、卒業生、企業関係者、大学関係者など約500名が参加しました。

記念大会では、工学部卒業生でもある福井工業大学の市川秀和教授、工学部1期生の川上英男福井大学名誉教授が記念講演を行い、空襲や震災を乗り越え地域とともに発展してきた工学部の歴史と未来を参加者とともに共有しました。



100周年記念大会の様子

同じく創立100周年記念大会の一環としてかねてより建設を進めておりました工学部100周年記念館が、令和6年9月に完成しました。この記念館は、建築系の学生を中心とした学内コンペによる優秀作品をもとに設計され、学生の発表や自習に利用できるスペースを配置し、学生同士や学生と教員とのコミュニケーションの場として、また卒業生や地域の皆様に開かれた共創の拠点（イノベーション・コモンズ）及び研究成果の社会実装の場として活用されることを想定しています。

なお、この建設に係る費用は、ほぼ全額を卒業生や企業関係者などからご寄附いただいた「工学部創立100周年記念事業募金」にて使用させていただきました。

令和6年11月11日には、100周年記念館のお披露目会を開催し、関係者など約100名が参加されました。建築建設工学講座の寺崎寛章講師からは、記念館に導入されている、環境保全に配慮した「ライニング式地中熱空調システム」に関する講演が行われました。記念館自由見学の時間では、現役学生らの研究に関するパネルや制作物を展示し、参加者と熱心な意見交換を行われるなど、活気にあふれた時間となりました。



完成した100周年記念館



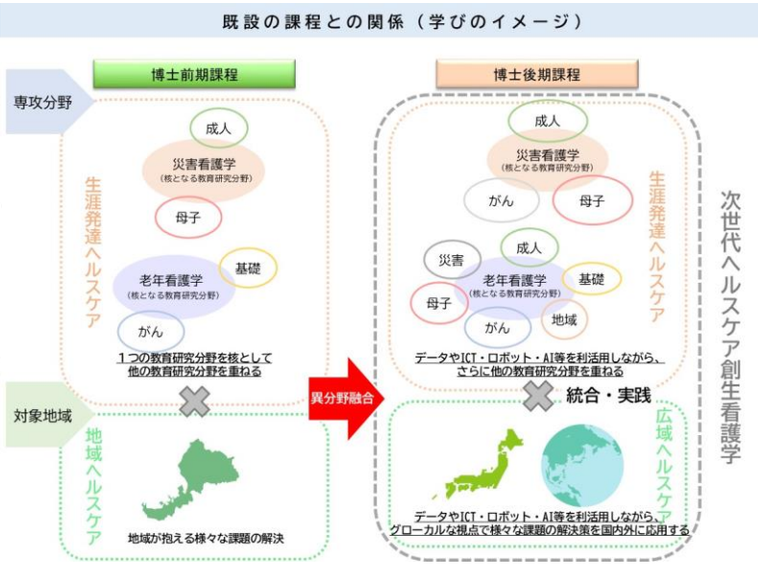
100周年記念館のお披露目会

このほか、工学部の100年にわたる歴史、伝統を記録に留めた「福井大学工学部百年史」の刊行や、文京キャンパスを散歩しながら工学部の歴史に触れる記念動画「福井大学工学部ブラ散歩」の作成、工学部独自の教育研究活動、学生の就学環境整備を支援するための基金創設の準備を進めるなど、工学部が引き続き地域と社会の発展、人材育成と研究に寄与していくための礎となるさまざまな事業を展開しました。

医学部看護学科博士後期課程の設置

福井大学大学院医学系研究科看護学専攻では、令和7年4月に博士後期課程を新設します。本課程は、高い倫理観と良識のもと、グローカルな視点と多角的・科学的な分析能力を備え、卓越した看護理論・技術と異分野を融合し、データや ICT・ロボット・AI 等を利活用しながら、様々な課題の解決策を国内外に応用する“広域ヘルスケア”及び乳幼児から老年期にいたる生涯を通じた個人の発達を促進させる“生涯発達ヘルスケア”を統合・実践できる研究・教育者、トップリーダーを養成し、看護学の発展と国内外の地域社会に貢献することを目的としています。

博士後期課程では、異分野を融合し、データやICT・ロボット・AI等を利活用しながら、博士前期課程における8つの教育研究分野（基礎看護学、成人看護学、災害看護学、がん看護学、老年看護学、精神看護学、地域看護学、母子看護学）を核としつつも更に多くの他教育研究分野を重ね、“生涯発達ヘルスケア”と、様々な課題の解決策を国内外に応用する“広域ヘルスケア”を統合することにより、人々が生活を営む地域の特性に応じたヘルスケアを追求する“次世代ヘルスケア創生看護学”の研究を進めていきます。



福井大学校友会設立



設立総会での堀会長挨拶

国立大学法人福井大学として発足後20年となる今年9月9日に福井大学校友会が誕生しました！

本会は、福井大学を支援するとともに、会員の交流・相互支援を図り、ひいては地域社会の発展に貢献することを目的とする会で、卒業生・修了生、在学生、役員・教職員（OBを含む）の皆様に会員となっていただき、学部を越えた卒業生の交流、卒業生と在学生の交流、退職教職員の交流など、様々な交流の拠点となることを目指しています。

18才人口の減少や国の財政難など、国立大学を取り巻く環境が一段と厳しくなる中、新しい時代に対応できる人材の育成、研究における新たな強みの創出など、地域活性の中核化拠点として本学が存続していくためには、卒業生を中心とする様々なステークホルダーの皆様との連携が不可欠です。関係の皆様には、是非とも福井大学校友会にご参加を賜り、いつまでも福井大学と共に歩んでくださいますようお願い申し上げます。



設立総会記念写真

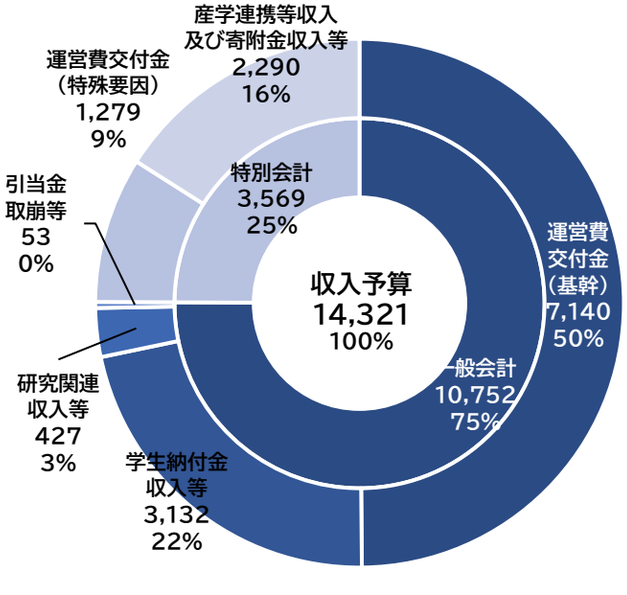
数字でみる 福井大学

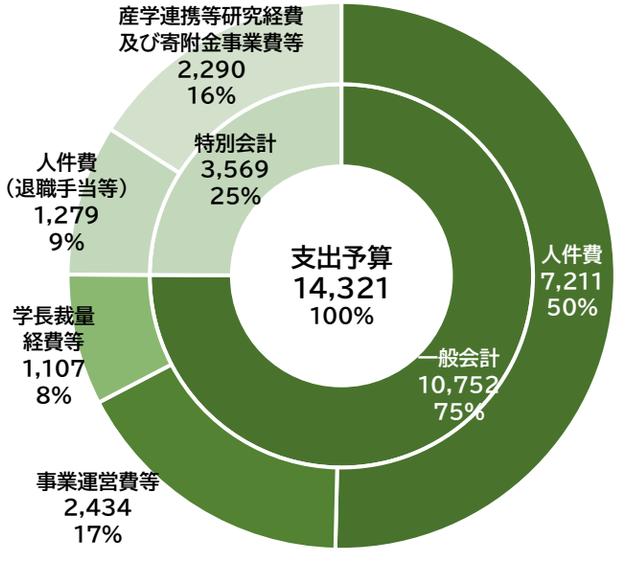
令和6年度予算

一般会計：大学運営基盤事業
特別会計：退職手当、補助金等外部資金等

大学（附属病院を除く）

単位：百万円

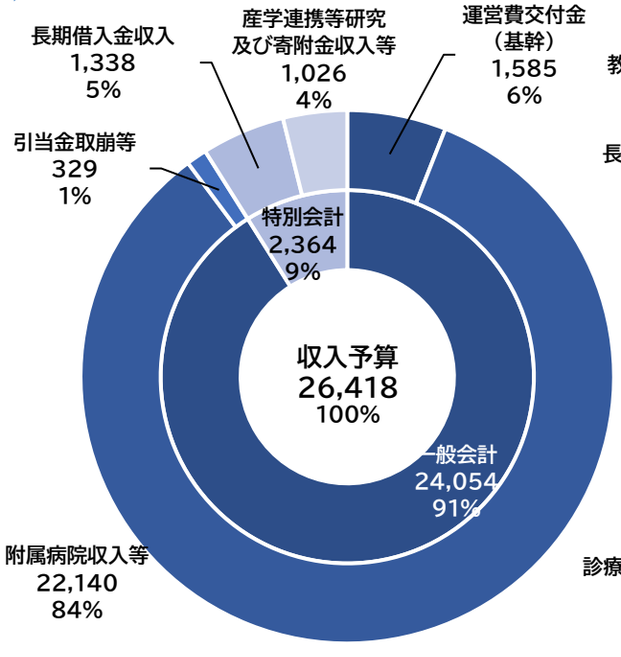


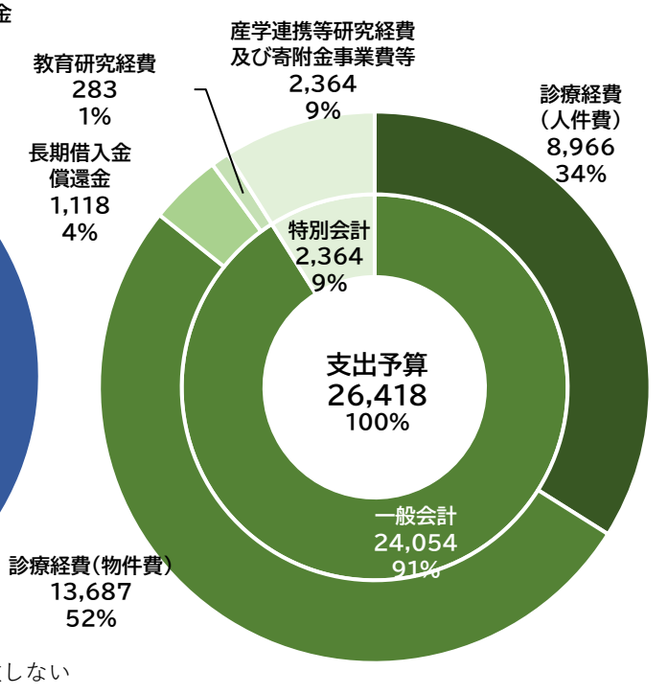


注）単位未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しない

附属病院

単位：百万円





注）単位未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しない

数字でみる 福井大学

構成

キャンパス面積

文京　110,248㎡
松岡　270,230㎡

教職員数※1

2,207人

事務局職員　326人　　教育系教職員　135人　　国際系教職員　26人
工学系教職員　159人　　医学・病院系教職員　1,457人
センター等教職員　104人

学生数

学部生※1

4,026人

教育学部　443人　　医学部　952人
工学部　2,373人　　国際地域学部　258人

大学院生 ※1

962人

連合教職開発研究科　121人
医学系研究科　172人　　工学研究科　658人
国際地域マネジメント研究科　11人

実績

進路決定率

98.8%

国立大学1位
17連覇達成

教育学部　99.0%　　医学部　97.3%
工学部　99.2%　　国際地域学部　100%

国家試験合格率 ※過去5年間の平均

医師　97.1%　　保健師　100%
助産師　100%　　看護師　100%

教員免許取得状況 ※2

R5年度　399件　　R4年度　366件
R3年度　414件　　R2年度　477件
R元年度　446件　　H30年度　470件

海外派遣学生数 ※3

アジア　102人　　オセアニア　21人
北米　21人　　欧州　7人

特許取得数

R5年度　32件（国外6件）　R4年度　36件（国外12件）
R3年度　48件（国外15件）　R2年度　26件（国外4件）
R元年度　19件（国外1件）　H30年度　12件（国外2件）
H16～H29年度　288件（国外25件）

技術相談件数

R5年度　474件　　R4年度　529件
R3年度　423件　　R2年度　499件
R元年度　548件　　H30年度　653件
H29年度　392件　　H28年度　286件

※1　R6年5月1日現在
※2　幼稚園、小学校、中学校、高校の教員免許取得数の延べ数
※3　本学が留学を許可した者、あるいは本学の教育制度として海外派遣された者

ミッション実現戦略における取組

第４期中期目標期間において、社会的インパクトを創出するための戦略的な強化事業

未来を拓く子どものこころの解明研究と社会実装事業の推進

＜取　組＞

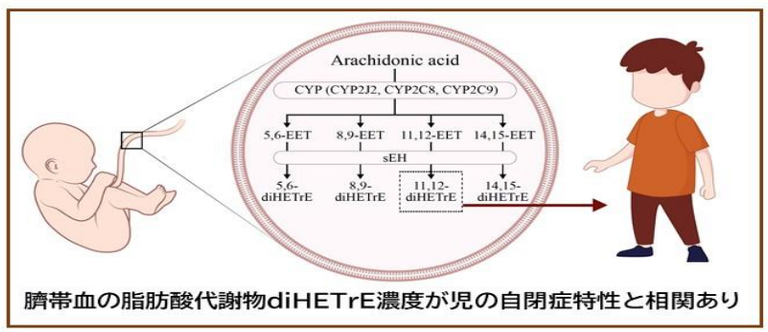
神経発達症や虐待への支援法開発を目指し、臍帯血を用いた出生コホートによる自閉スペクトラム症の早期診断法の探索や、神経発達症児の脳画像データベースの構築、養育者の子育て困難（マルトリ）リスクを評価する方法を開発しました。今後は、これらの成果を社会に活かすため、臨床研究をさらに進めていきます。

＜成　果＞

- 自閉スペクトラム症の予測に寄与する臍帯血中の脂肪酸代謝物「diHETrE」を同定し、臍帯血を用いた子どもの自閉スペクトラム症（ASD）予測の新しい手法を発見（特許出願中）。この成果は海外ニュースサイトや地元の新聞・テレビなど、国内外80以上のメディアで取り上げられ、大きな話題となった。
- 親の養育困難リスクを予測する客観的プログラムを開発し（特許出願中）、地域で実証実験を実施。
- 「マルトリ」への理解を深め、その予防に取り組むことを目指し、全国の里親12,000人に向けて「マルトリ予防®研究」の成果を広め、啓発活動を実施。なお、こども家庭庁の施策に係る説明資料において、本学教員の著書が引用された。

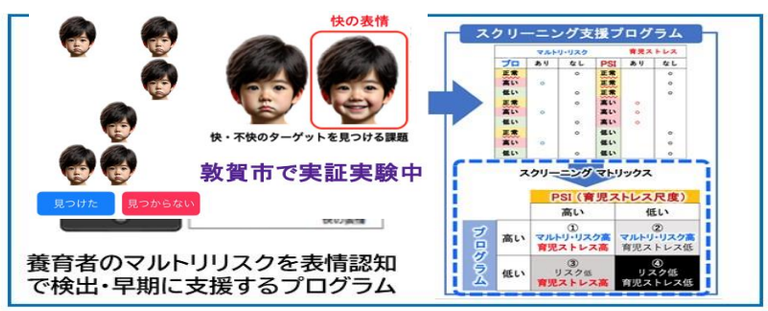
＜本取組により創出される社会的インパクト＞

・臨床に役立つ客観的バイオマーカーの開発
・神経発達症児の早期診断・介入が可能となり、神経発達症児のQOLの向上
・二次障害としての精神疾患への進展を予防



臍帯血の脂肪酸代謝物diHETrE濃度が児の自閉症特性と相関あり





養育者のマルトリリスクを表情認知で検出・早期に支援するプログラム





地域産学官金連携によるオープンイノベーション活動の推進

＜取　組＞

地域繊維産業が直面する環境負荷低減に関する課題解決に向け、超臨界CO_2を利用した水を使わない染色技術をコアとする、完全・循環型の未来を創造するテキスタイル研究拠点の形成を進めています。
福井県や地域高等教育機関、産総研等と協働し、繊維を起点とする地域共創の場を形成、オープンイノベーションを推進します。

＜成　果＞

- 科学技術振興機構（JST）の公募事業の採択
  共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野（育成型（2年間））
- 未来共創テキスタイルセンターの拠点整備
  未来型テキスタイルの研究拠点として、新たに産学官連携本部Ⅲ号棟「未来共創テキスタイルセンター」を整備（令和7年3月完了予定）。

＜本取組により創出される社会的インパクト＞

・地域産業を核とした様々な技術分野におけるイノベーションの創出
・地域イノベーションエコシステムの持続運用によるヒト・モノ・カネの好循環
・新事業や新産業の創出による地域産業の活性化、産業構造のグランドデザイン革新、未来ビジョン共有による地域住民の行動変容

未来共創テキスタイルセンター（イメージ）



フクミラ
フクのミライを創るプロジェクト

新たな繊維産業のあり方を創り、服と福井の未来を変えるプロジェクト（フクミラ）

未来共創テキスタイルセンターに配置予定の大型研究設備（一例）



・電界放出型走査電子顕微鏡
　高い検出効率と優れた分析性能を持つ電子光学系を備え、加速電圧1 kV未満でサブナノメートルの分解能を実現した走査電子顕微鏡です。従来機では分析できなかった炭素繊維表面上のサイジング材等、極微小量かつ電子線で損傷を受けやすい物質の分布情報についても取得が可能となります。

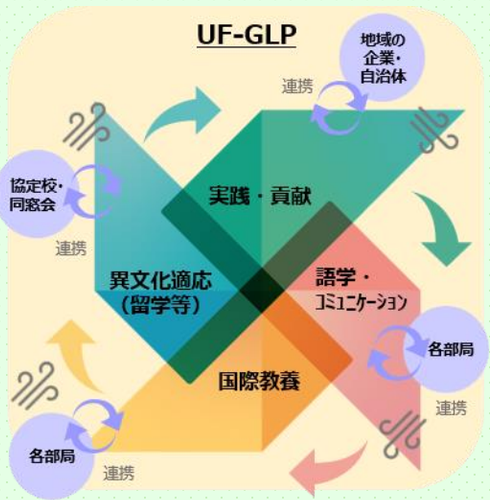
教育研究組織改革における取組

社会変革や地域の課題解決を主導し、その成果を社会還元するための強化事業

地域を拠点に活躍するグローバル・リーダー人材育成システムの構築

全学的なグローバル・マネジメント体制の強化、及び地域を拠点に活躍するグローバル・リーダー人材育成システムの構築・推進のため、令和6年4月にグローバル・エンゲージメント推進本部（略称「IGE」）を新設しました。IGEは、優秀な正規外国人留学生のリクルーティング戦略の立案、グローバル・リーダー人材育成教育プログラムの開発、学術交流協定校との国際学修・国際連携の推進を担うグローバル戦略部と、産学連携・地域連携の体制整備、地域共生・地域課題解決を企図した留学生・日本人学生混成型授業の開発、留学生同窓会との協働による地域活動の拡大を担うアライアンス戦略部で構成されており、地域×海外×共創型を軸とした地方大学の新たな「グローバル教育モデル」の確立に向け、学内各部局や県内自治体、教育機関等と連携して教育研究の更なる国際化を推進しています。

また、IGEの附属施設としてグローバル人材育成研究センター（略称「GER」）を置き、習熟度別・少人数制クラスによる実践的語学教育やグローバル・リーダーシップ教育を行う英語教育部、日本語教育部の他、新たにUF-GLP部を設け、学内のグローバル活動やIGEの教育プログラムを体系化し達成度を可視化する「福大グローバル・リーダーシップ・プログラム（略称「 UF-GLP」）」の推進に取り組んでいます。UF-GLPをとおして、世界に通用する専門能力とグローバル・スキルを備え、タフでリーダーシップを有する人材を育成するとともに、学生の帰属意識を醸成し、地域・国際社会に貢献することを目指していきます。



学生のグローバル・リーダーシップの涵養に資する4つの力「語学・コミュニケーション」「国際教養」「異文化適応」「実践・貢献」を体系的に向上させ、**「地域を拠点に活躍するグローバル・リーダー人材の育成」を効果的に運用するためのプラットフォーム**を構築。全学一貫の実践的・体系的グローバル・リーダー人材育成を行う。

福大グローバル・リーダーシップ・プログラム（UF-GLP）

附属病院における機能拡大・社会貢献へ向けた取組

摂食障害支援拠点病院としての活動

福井大学医学部附属病院は、福井県から厚生労働省事業「摂食障害治療支援センター設置運営事業」における「摂食障がい支援拠点病院」の指定を受け、令和5年10月から活動を開始しています。「摂食障がい支援拠点病院」の指定は、全国では6番目、福井県内での指定は初めてとなります。

摂食障がいは、食行動を中心に様々な問題が現れるこころとからだの病気です。精神疾患・精神障がいの中で最も致死率の高い病気でもあり、できるだけ早く気づき、できるだけ早く精神症状と身体症状の両側面に適切な治療と支援が必要となります。

本院では、公認心理士による電話相談窓口の設置のほか、講演会の開催や連携医療機関への治療研修等の普及啓発活動、協議会の設置による行政・県内医療機関との連携体制の構築・強化等、摂食障がいに対する総合的な対策を福井県地域全体に行っていきます。





教育学部／
福井大学・岐阜聖徳学園大学・
富山国際大学連合教職
開発研究科

新しい時代に生きる子どもたちの
未来をひらく教師をめざして



特色あるカリキュラム

協働学習支援プロジェクトⅠ～Ⅲ（探究ネットワーク）

子どもたちと共に、人形劇、料理作り、まちかど調査隊、FFC（ふれあいフレンドクラブ：障がいのある子どもたちが対象）などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養います。

心理発達支援プロジェクトⅠ・Ⅱ（ライフパートナー）

学生が、不登校/発達障がい児童生徒の学校や家庭を訪問し「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助します。共に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動します。この事業には、子どものこころの発達研究センターも参加しています。

特色ある3大学による「連合教職大学院」

本学を基幹校に、教員養成に優れた実績を持つ岐阜聖徳学園大学・富山国際大学が参加して、評価の高い学校拠点方式を軸とした3つのコースにより、若い世代の教員や学校で核となる教員、管理職を養成します。

実　績

「嶺南地域教育プログラム」

嶺南地域の次代を担う教員養成のための「4年間継続学生支援プログラム」で、嶺南地域の市町の協力の下、地域を知るための講義・演習および嶺南地域での学校体験、教育実習を行います。

令和5年度は学年進行に沿って2年次科目「嶺南地域学B」を初めて開講し、前年度からの福井県教育庁嶺南教育事務所並びに担当教員間との密な連携のもと、教育リソースの体験学習等を実施し、嶺南地域における学校教育の展開への視点を醸成しました。

「次世代を担う理数系人材の育成」

本学教育学部を中心に、県内の教育機関や経済界などが連携して未来の科学者を育てる「ジュニアドクター育成塾」を平成30年度から開講しています。

令和5年度は上級CST受講者（現職中学校教諭）1名、初級CST受講者（学部生）2名の計3名がCST養成プログラムを修了しました。本プログラムの「学校インターンシップ」部分をアレンジした「福井CST型学校インターンシップ」では、理科以外の教科等を専門とする学生16名が学校現場実習に取り組みました。

◆ 令和5年度財務情報（単位：百万円）　※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	86
研究経費	46
受託事業費等	38
人件費	650
業務費用計	820

区分	金額
運営費交付金収益	1,019
学生納付金収益	345
受託事業等収益	38
寄附金収益	2
補助金等収益	3
雑益	7
業務収益計	1,414

区分	金額
建物	594
構築物	3
その他固定資産	12
流動資産	15
帰属資産	624



医学部／医学系研究科

愛と医術で人と社会を健やかに



特色あるカリキュラム

アウトカムとコンピテンシーからなるアウトカム基盤型教育を実践

医学科では、医学部理念を具現化するためのアウトカム（卒業時に身につけるべき学修成果）とコンピテンシー（修得すべき能力）を定め、世界水準の医学の知識と技能を修得し、地域社会や国際社会で活躍できる医師および医学研究者を育成しています。

革新的画像医学教育：高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、充分に活用できる医師を養成しています。

看護教育：多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる独自カリキュラムを実施しています。また、社会のニーズに応え、多職種連携の在宅医療を担う看護師教育の充実を目指し、医学科生とチーム医療を意識した「地域ケア実習」を実施しています。

実　績

「ソーシャル・キャピタル（地域の絆による健康効果）による地域包括ケアシステムの展開」

社会参加や交流・つながりの機会（ソーシャル・キャピタル）は地域の支え合いと規範を生み、健康、経済、教育等さまざまな分野に恩恵をもたらすとされ地域の持続可能性が向上すると考えられています。医学部では、高浜町において、住民・行政・専門職が参加し、オンライン・ソーシャル・キャピタルを醸成するイベント「健高カフェ」12回、「健康のまちづくりアカデミー」5名の修了生の輩出、「健康のまちづくりサミット」を開催し、“地域主体の健康のまちづくり”を推進しています。

「日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価」

令和5年12月に一般社団法人日本医学教育評価機構（JACME）による国際基準に基づく医学教育分野別評価の実地調査を受審した結果、本学医学部医学科は評価基準に適合していることが認定されました。評価の結果を真摯に受け止め、今後も、医学部における教育のさらなる向上につなげ、より質の高い医療人を輩出し、以って我が国の医学・医療のレベルアップに繋げてまいります。

◆ 令和5年度財務情報（単位：百万円）　※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	257
研究経費	389
受託研究費	65
共同研究費	26
受託事業費等	89
人件費	1,581
業務費用計	2,408

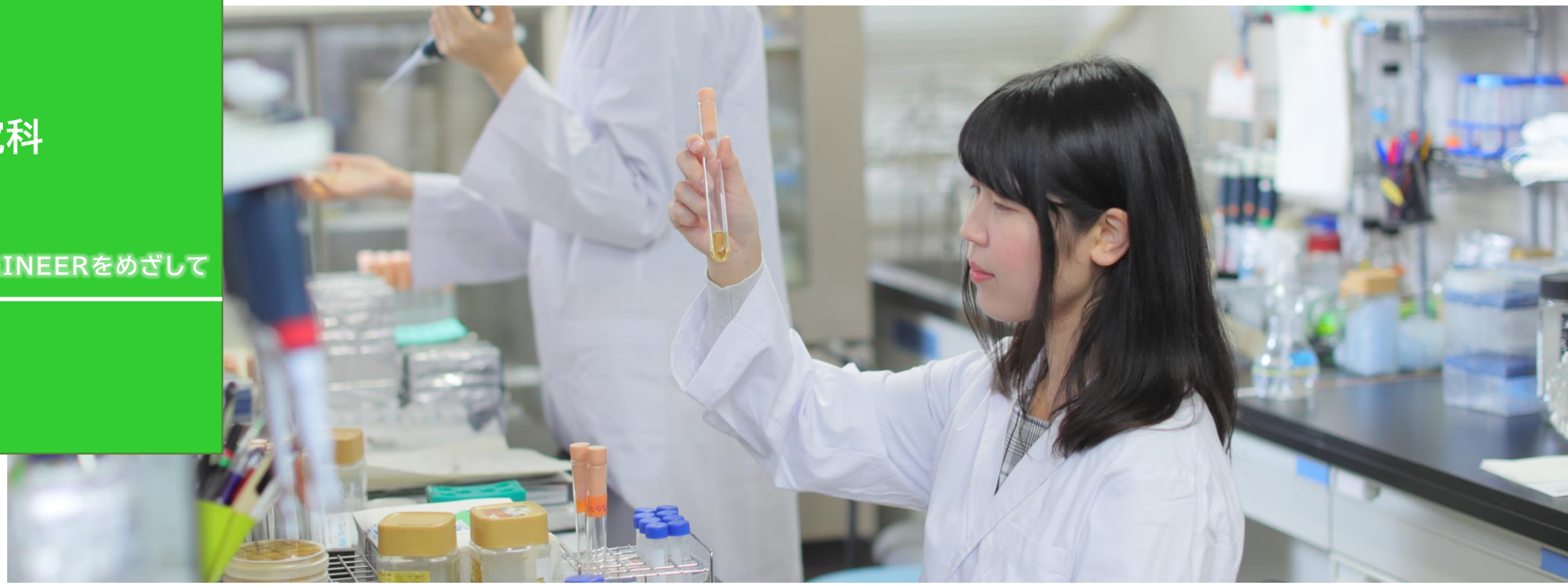
区分	金額
運営費交付金収益	1,064
学生納付金収益	653
受託研究収益	114
共同研究収益	30
受託事業等収益	101
補助金等収益	92
寄附金収益	447
施設費収益	1
雑益	57
その他の収益	29
業務収益計	2,590

区分	金額
建物	2,257
構築物	134
その他固定資産	368
流動資産	78
帰属資産	2,837



工学部／工学研究科

夢を形にする技術者、IMAGINEERをめざして



特色あるカリキュラム

Global Imagineerの育成

本学では、その想いを世界の人々へと拡張するGlobal Imagineerへの挑戦を平成24年度より開始しています。英語教育も、コミュニケーションツールを得ることのみならず、思考の枠組みを拡張することを目指して推進しています。

自己変容型知性を育む創成教育への挑戦

教育がなすべきことは、どんな状況になってもしなやかに生き延びることのできる「知性」を育むこと。そうした知性を育む方法論は確立していませんが、私たちは学科・学年の枠を越えた主体的グループ活動を分野横断型の教員組織で支援する創成教育を通じて、新たな能力育成に挑戦しています。

産業現場への即応、そして次世代産業の創成

産業界からの実践現場の提供とエキスパートの教育参加による自律型産業人材の育成プログラム（実践道場）や次世代繊維・ファイバー工学分野の人材育成といった多様なプログラム等を通じて、高度専門技術者の育成に取り組んでいます。

実　　績

「新たな英語教育プログラムの導入」

令和3年度より工学部2年生向け共通教育科目である「英語V」及び「英語VI」においてクラウド型e-learningシステムを全面導入し、同年4月から運用を開始しました。時間と場所を問わず繰り返し学習できることにより、学生の英語技能の向上に役立っています。今後も授業担当教員と教務課の協働により、学期途中においても改善策の検討や科目運用の見直しを行い、同プログラムを継続して実施していきます。

「県の補助金を活用したPBL教育の実施」

令和2年度より福井県の補助金である「未来協働プラットフォームふくい推進事業（大学等魅力アップ支援分）」の支援（総額1,500千円）を得ており、引き続き令和5年度においても、学内予算1,625千円と合わせて博士前期課程の学生を対象としたプロジェクト型学習（PBL）を実施しました。令和4年度よりも多い16件のプロジェクト（全日本製造業コマ大戦への参加を通じた精密加工スペシャリスト育成プロジェクト、機械学習やXR技術を用いた実践型課題解決プロジェクト、中山間地の活性化に向けた既存建築物活用方策の提案2023、橋梁製作を通じたグローバル技術者育成プロジェクト、福井県内におけるまちづくりの実践的学習等）が開講され、110名の学生が受講しました。これらを通じ、課題認識力、問題解決力、行動力等の習得が促され、実践能力を持つ人材育成に貢献しました。

◆ 令和5年度財務情報（単位：百万円）

※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。工学部・工学研究科は、主に学納金収入を運営資金としていることから、運営費交付金収益がマイナスとなっています。

区分	金額
教育経費	272
研究経費	405
受託研究費	37
共同研究費	106
受託事業費等	9
人件費	1,796
業務費用計	2,627

区分	金額
運営費交付金収益	-51
学生納付金収益	1,881
受託研究収益	53
共同研究収益	157
受託事業等収益	10
補助金等収益	37
寄附金収益	273
雑益	28
業務収益計	2,388

区分	金額
建物	1,209
構築物	13
その他固定資産	454
流動資産	800
帰属資産	2,477



国際地域学部／
国際地域マネジメント研究科

未来志向で、地域に織り込む世界へのまなざし



特色あるカリキュラム

国際地域学部の特色

世界と地域を繋ぐ徹底した英語教育と異文化理解教育

グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、多様な学習と経験の機会を提供しています。

地域の企業・自治体等と連携した地域密着型課題探求プロジェクト

福井の企業や自治体等の現状・課題を調査し、問題解決の一端を担います。意思決定や批判的な思考を育むとともに、リアルな現場としての社会を理解し、それに適応する能力を身につけます。

国際地域マネジメント研究科の特色

企業や自治体の従業員・職員が働きながら学ぶために設置された北陸初の経営系専門職大学院（令和2年度開設）。授業は火曜・木曜の夜間（オンライン）と土曜の午前・午後（対面が基本（オンラインも可））に実施しています。
国際＋地域＋マネジメントの3要素を軸とするカリキュラムで国際的な視野をもつマネジメント・リーダーを育成します。

実　績

国際地域学部：「異文化理解教育の実施」と「課題探求プロジェクトによる地域課題についての学びの実施」

【異文化理解教育】交換留学については、Ⅰ期6名、Ⅱ期5名の学生を協定校に派遣しました。また、UMAP制度により1名をカナダに派遣しました。さらに、短期海外研修プログラムには12のプログラムに33名が参加しました。 また、独立行政法人国際協力機構北陸センター（JICA北陸）が実施する2023年度課題別研修「子どもの保護：地域ベースの取組みとそれを支える政策枠組み」に継続採択され、3カ国の省庁職員ら4名が9月下旬に来日。本学と県内の地方自治体等で現場での対応や具体な事例、課題について視察や講義を通じて研修を行い、最終日には学生や地方自治体等の方を交えた、アクションプラン発表会を実施しました。

【課題探求プロジェクト】1年生は、11の企業及び自治体等に分かれ、グループ活動及びヒアリング調査を行い、2年生は、10テーマについて、3年生は、14テーマについて活動を行い、その成果について報告会を行いました。

国際地域マネジメント研究科：「海外実地研修およびプレ海外研修を実施」

令和5年度は、フランス・パリのUNESCO本部をはじめ、アメリカ、シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナム、インドの研修先にて、2年次生7名が海外実地研修を実施しました。

◆ 令和5年度財務情報（単位：百万円）　※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	33
研究経費	7
共同研究費	1
受託事業費等	2
人件費	264
業務費用計	307

区分	金額
運営費交付金収益	109
学生納付金収益	164
共同研究収益	1
受託事業費等収益	2
補助金等収益	1
雑益	2
業務収益計	280

区分	金額
建物	1
流動資産	3
帰属資産	4



医学部附属病院

新しく優しい医療をあなたのもとへ



主　な　取　組

県内で唯一の特定機能病院として高度医療の提供と臨床研究の推進を担う

「地域医療の最後の砦」として、高度医療の提供、新規医療技術の開発・評価を行っています。

急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上に資する「クラウド型救急医療連携システム」の開発

福井県内の5消防本部12救急隊、福井県防災ヘリコプターおよび急性心筋梗塞救急搬送指定医療機関の5病院に導入され、へき地の救急要請現場から心電図の送信が可能になったことにより、急性心筋梗塞発症患者の救命率の向上を実現しています。

大学附属病院初の北米型ER救急体制

一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を365日24時間体制で実践しています。

実　　績

「福井県脳卒中・心臓病等総合支援センターの設置」

厚生労働省が令和4年度より実施している『脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業』において、福井県での令和5年度のモデル事業として、福井大学医学部附属病院が選定されました。本センターでは、福井県民を対象とした「脳卒中・心臓病相談窓口」の開設、医療・保健福祉関係者を対象とした研修会の開催、生活改善に関する県民向けの公開講座の開催、病気予防などの啓発パンフレットの配布など、福井県の循環器病対策推進計画に即して、中心的な対策事業を担っています。

「『目の手術室』の設置」

令和5年5月より、眼科専門手術室である『目の手術室』を開設しました。近年、高齢化に伴い増加する白内障などの眼科手術件数の増加に対応し、眼科手術対応日を拡大するだけでなく、既存手術室の他診療科への対応を手厚くし、様々な手術に迅速に対応できる体制を構築しています。

◆ 令和5年度財務情報（単位：百万円）　※百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

区分	金額
教育経費	39
研究経費	103
診療経費	14,515
受託研究費	106
共同研究費	4
受託事業費等	154
人件費	9,608
一般管理費	58
財務費用	52
業務費用計	24,638

区分	金額
運営費交付金収益	1,970
附属病院収益	21,601
受託研究収益	133
共同研究収益	5
受託事業等収益	155
補助金等収益	512
寄附金収益	77
雑益	81
業務収益計	24,533

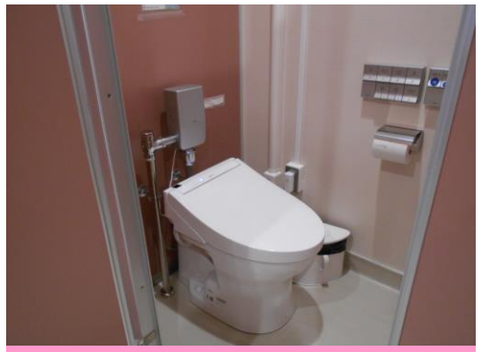
区分	金額
土地	7,728
建物	11,946
構築物	345
その他固定資産	4,941
流動資産	5,894
帰属資産	30,854



キャンパス環境

施設整備・設備整備

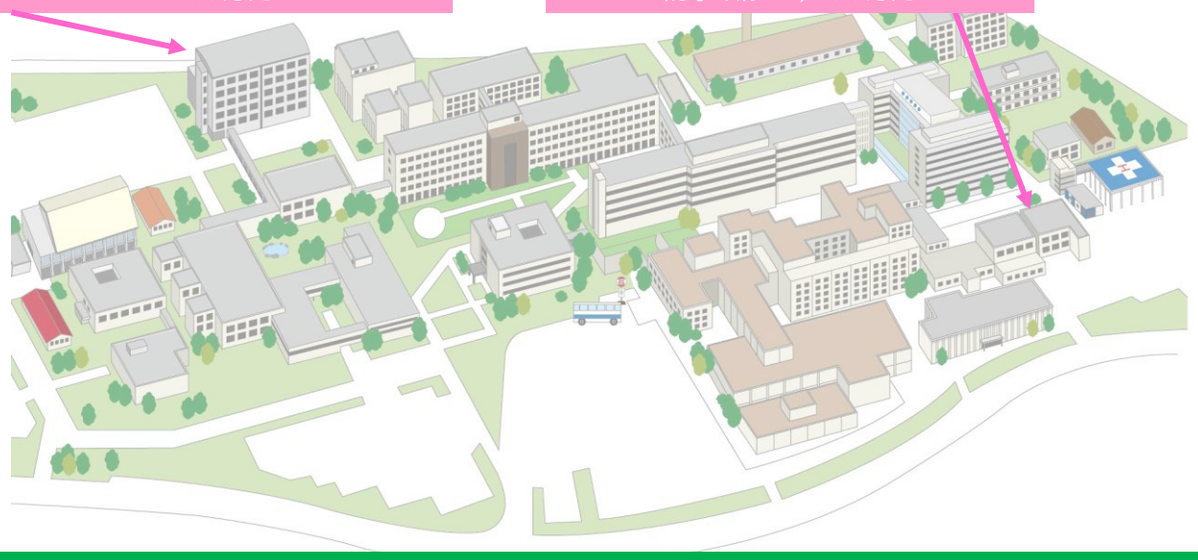
松岡キャンパス



（松岡）看護学科棟トイレ改修
750万円



（松岡）高エネルギー医学研究センター
防水改修　1,700万円



設備整備（附属病院）

放射線治療装置　4億9,400万円



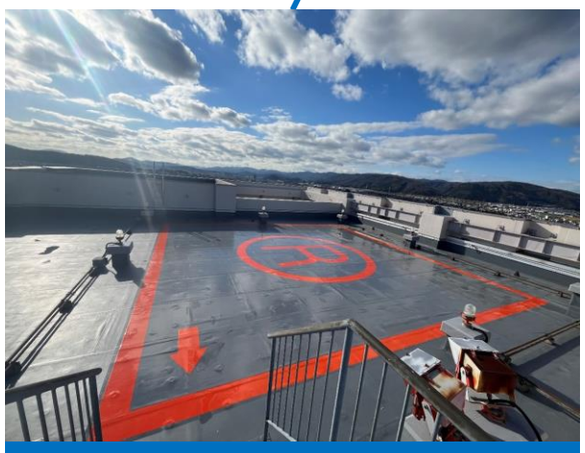
治療計画用X線CT装置　1億7,800万円



放射線部に最新の高精度放射線治療システムを導入しました。最新の放射線治療装置及び治療計画用X線CT装置に更新したことで、高精度な照射が可能となり、照射時間が大幅に短縮されたことで患者の負担軽減に繋がっています。

文京キャンパス





（文京）総合研究棟Ⅰ西棟
屋上防水改修　1,600万円



（二の宮・八ツ島）附属学校
屋外給排水・ガス管工事
1億2,100万円

福井大学のガバナンス体制

ガバナンス体制

本学では、国立大学法人法に基づき、国立大学法人の重要事項を審議する機関として、役員会、経営協議会、教育研究評議会を設置しているほか、これら法定会議に附議する事案の調整を行うため、全学運営委員会を設置しています。

役員会は、国立大学法人法第11条第3項に定める重要な事項を審議する機関であり、学長、理事5名の6名で構成されています。

また、学長は、国立大学法人法に基づく学長選考・監察会議の選考を経て、法人の申出に基づいて文部科学大臣によって任命されます。なお、学長選考・監察会議の委員は、経営協議会構成員から5名と教育研究評議会構成員から5名の10名で構成されています。

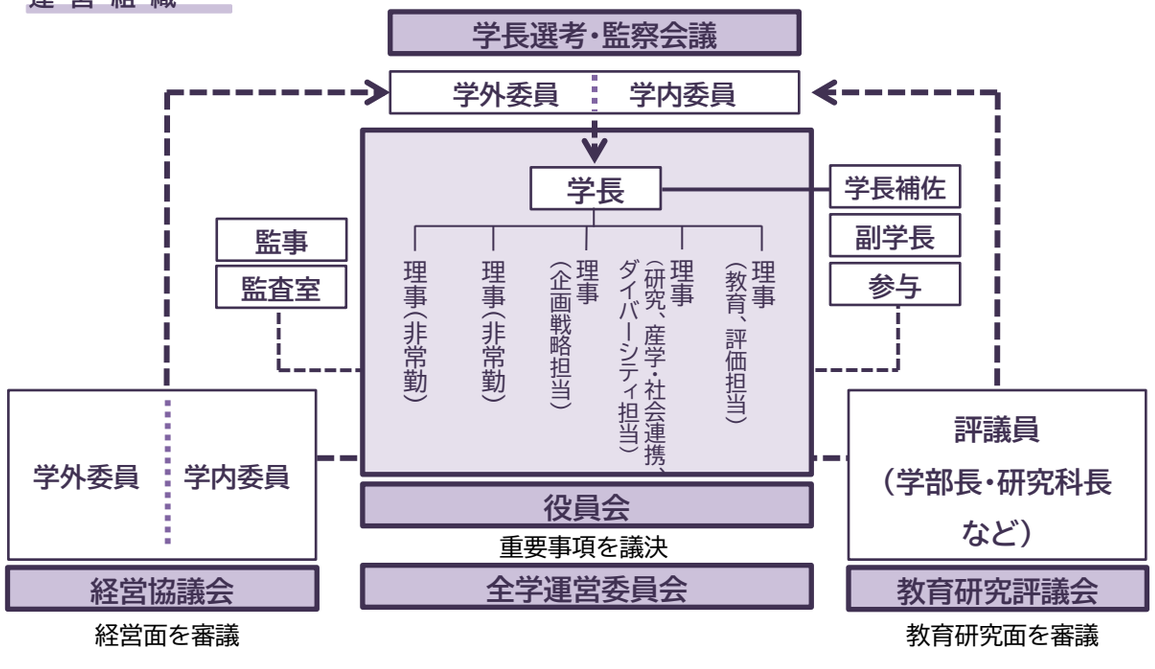
経営協議会は、国立大学法人法第20条第5項に定める経営に関する重要な事項を審議する機関であり、学長、理事3名、副学長3名及び学外の有識者9名の16名で構成されています。

教育研究評議会は、国立大学法人法第21条第4項に定める教育研究に関する重要な事項を審議する機関で、学長、理事3名、副学長3名、各学部長4名、研究科長2名、部門の教員3名、学部の教員4名及び学長が指名する者5名の25名で構成されています。

大学経営の中軸をなす学内資源配分については、全学運営委員会にて要求事業のヒアリングや部局間の調整を行い、戦略的な資源配分について審議が行われます。その後、経営協議会及び役員会の議を経て、予算編成方針・予算案が決定されており、大学としてのガバナンス体制が実現されています。

また強靭なガバナンス体制を構築するため、本学は、国立大学法人ガバナンス・コードを基本原則として、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するための経営機能を高め、併せて、経営の透明性を向上させ社会への説明責任を果たし、社会の皆様からの信頼と理解を得続けられるよう努めています。

運営組織



監事監査

監事は、業務の適正かつ効率的な運営を確保すると共に、会計経理の適正を期することを目的に監査を実施しています。監査の方法は、内部監査部門や会計監査人と連携し、毎年度の監査計画に監査事項を設定して実施するほか、役員会・教育研究評議会・経営協議会やその他重要な会議に出席し、ガバナンス体制や学長及び理事の職務の執行が法令などに適合することを確認しています。

令和5年度の監査実績

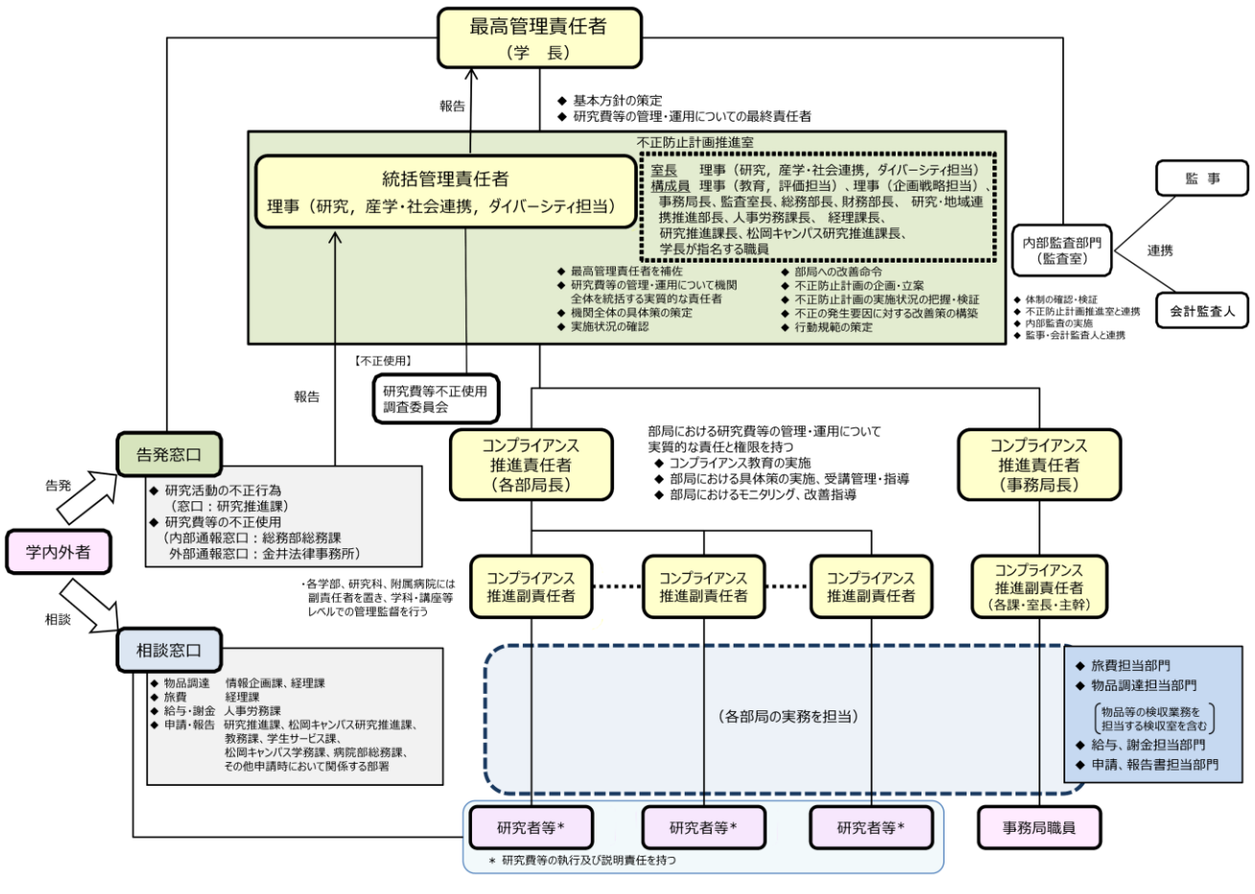
- 内部統制の整備及び運用状況（コンプライアンス、リスク管理含む）
- 中期計画の実施状況及び進捗管理
- 国立大学法人ガバナンスコードの適合状況等の報告に関する取組状況
- 予算の執行及び内容の把握ならびに決算の状況
- 医学部附属病院の運営に関する事項
- 人事制度見直しに関する取組ならびに運用状況
- これまでの監査指摘・提言事項のフォローアップ

研究費等の管理運営体制

本学では、「研究機関における公的研究費 の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成 19 年 2月 15 日文部科学大臣決定）を踏まえて、本学における公的研究費及びその他本学の資金（以下「研究費等」という。）の適正な運営・管理のために、以下のとおり不正防止対策等に取り組んでいます。

1. 機関内の責任体系の明確化
2. 適正な運営・管理の基盤となる環境の整備
3. 不正を発生させる要因の把握と不正防止計画の策定及び実施
4. 研究費の適正な運営・管理活動
5. 情報発信・共有化の推進
6. モニタリングの在り方

なお、従前より公的研究費等の事務処理手続き及び使用ルールについては、統一的な運用を図るためにマニュアル化等を行っているほか、学内外関係者から相談や問い合わせを受け付ける相談窓口も設置しています。



福井大学基金（羽ばたけ基金）®

ご支援・ご協力のお願い

福井大学基金は、福井大学が目指す「世界に通じる地方総合大学」と「社会から頼りにされる、活力ある大学」の実現のために活用しております。

これまでに、総額7億9,307万円のご寄附をいただき、延べ1,733人の学生さんの修学支援に有効に活用させて頂いております。（令和6年9月末現在）

用　途

一般基金

福井大学全体または学部への支援

学生修学支援事業

経済的な理由により修学が困難な学生さん、障害のある学生さんの修学を支援します。

学生・若手研究者研究支援事業

学生又は不安定な雇用状態にある研究者の研究等を支援します。

卓越高度専門職業人育成・研究支援事業

グローバル社会で活躍できる優れた高度専門職業人育成のための修学支援、強みや地域特性を踏まえたイノベーションの創出につながる研究活動を支援します。

グローバル化・地域振興支援事業

グローバル化対応や地域振興のための学生・教職員の活動を支援します。

特定基金

特定の部局やプロジェクトへの支援

附属病院の応援

患者さん一人ひとりに安全で質の高い医療を提供し、福井県内唯一の特定機能病院としてご期待に応えます。

教職大学院の応援

次世代の教育を担う福井大学教職大学院の院生の修学を支援します。

附属学園の応援

教育学部附属学園の教育・研究の活性化を図ります。

周年事業

創立記念事業等への支援

工学部創立100周年記念事業及び工学系の教育・研究の応援

令和5年12月に創立100周年を迎えた工学部の記念事業並びに工学系の優れた人材の育成と研究の推進に活用します。

活用状況はコチラから

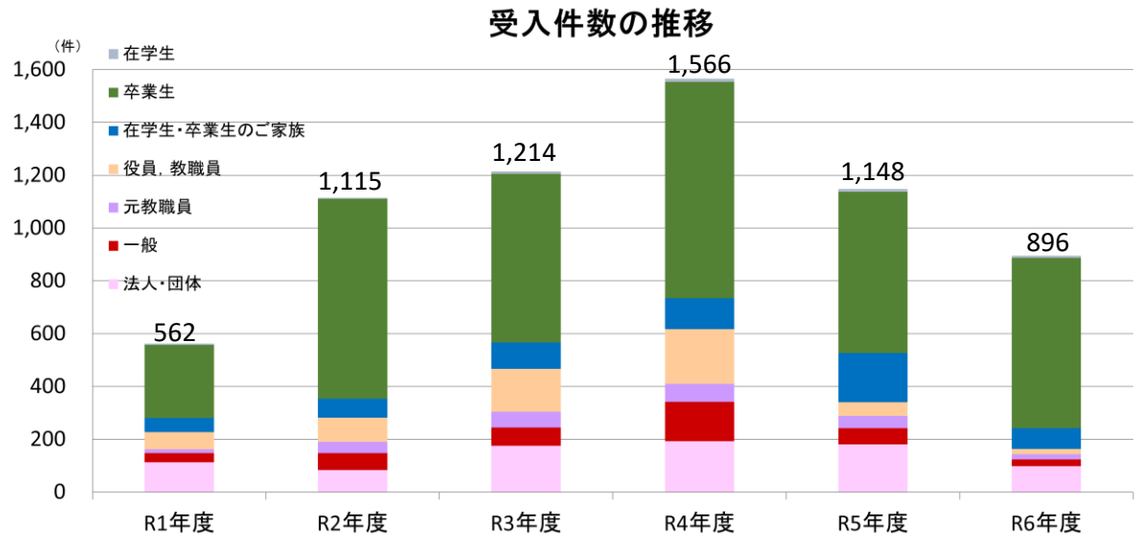
Web　福井大学基金（羽ばたけ基金）®

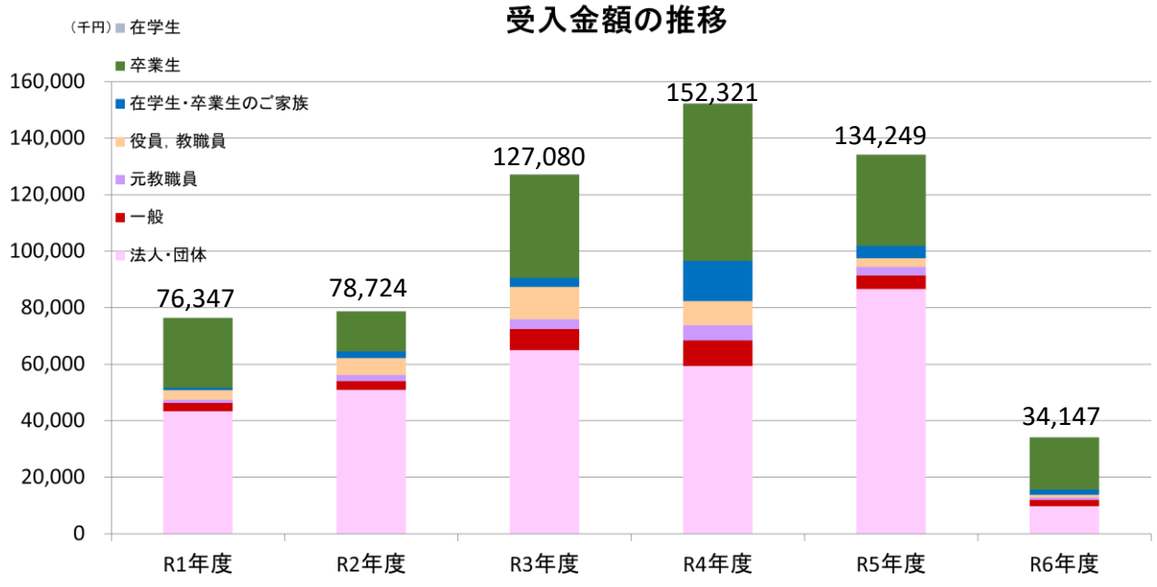
https://www.u-fukui.ac.jp/kikin/lk08/lk10/



福井大学基金の受入状況

令和6年9月末現在





貸借対照表(B/S)

貸借対照表とは、財政状況を明らかにするために、決算日におけるすべての資産(土地、建物、備品、現金及び預金等)、負債(運営費交付金債務、未払金等)および純資産(政府出資金、資本剰余金等)を記載し、報告するものです。

前年度との比較

(単位:百万円)

資産の部	令和４年度	令和５年度	増減	
固定資産	76,656	78,325	1,669	
土地	42,278	41,946	▲ 332	*1
建物	24,327	22,789	▲ 1,538	*2
構築物	1,105	1,156	51	
工具器具備品	4,105	7,452	3,347	*3
図書	2,707	2,730	23	
建設仮勘定	234	220	▲ 14	
投資有価証券	1,100	1,200	100	
ソフトウェア　他	260	229	▲ 31	
減価償却引当特定資産	540	603	62	
流動資産	15,152	17,768	2,616	
現金及び預金	11,084	10,240	▲ 844	
未収入金	3,854	7,310	3,455	
医薬品及び診療材料	136	119	▲ 17	
たな卸資産　他	77	99	22	
資産合計	**91, 808**	**96,093**	**4,285**	

負債の部	令和４年度	令和５年度	増減	
固定負債	16,091	17,231	1,140	
長期繰延補助金等	1,454	1,348	▲ 106	
借入金	13,207	13,281	74	
長期リース債務等	692	1,762	1,070	*4
引当金　他	739	840	102	
流動負債	12,006	15,461	3,455	
運営費交付金債務	402	264	▲ 139	
寄附金債務	4,245	4,223	▲ 22	
未払金	4,180	4,542	363	*5
預り補助金等　他	3,178	6,432	3,253	*6
負債合計	**28,097**	**32,692**	**4,595**	

純資産の部	令和４年度	令和５年度	増減
資本金	50,666	50,666	0
資本剰余金	2,236	1,619	▲ 617
利益剰余金	10,809	11,116	307
純資産合計	**63,711**	**63,401**	**▲ 310**
負債･純資産合計	**91,808**	**96,093**	**4,285**

注) 百万円未満は四捨五入しており，
計は必ずしも一致しません。

資産に関する特記事項

*1 土地　対前年比　▲332百万円
減損損失(宿舎地)による減

*2 建物　対前年比▲1,538百万円:
減価償却による減、減損損失(宿舎)による減

*3 工具器具備品　対前年比＋3,347百万円:
キャンパス統合情報ネットワークシステム、
総合情報基盤センター情報システムの更新による増

負債に関する特記事項

*4 長期リース債務　対前年比＋1,070百万円:
総合情報基盤センター情報システム等更新による増

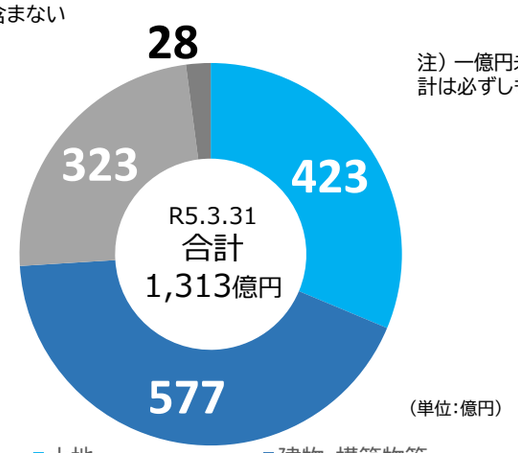
*5 未払金　対前年比＋363百万円:
建物及び設備工事費用の未払い増

*6 預り補助金等　他　対前年比＋3,253百万円:
大型補助金獲得による預り補助金の増

施設等取得額・老朽化比率の年度別推移

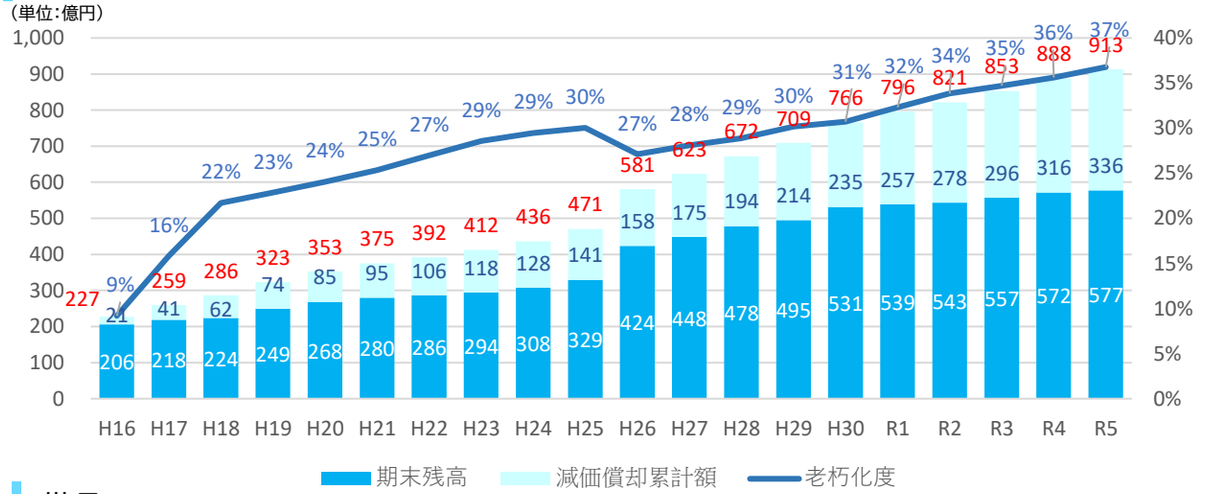
主要な有形固定資産の内訳

※減価償却累計額、減損損失累計額は含まない

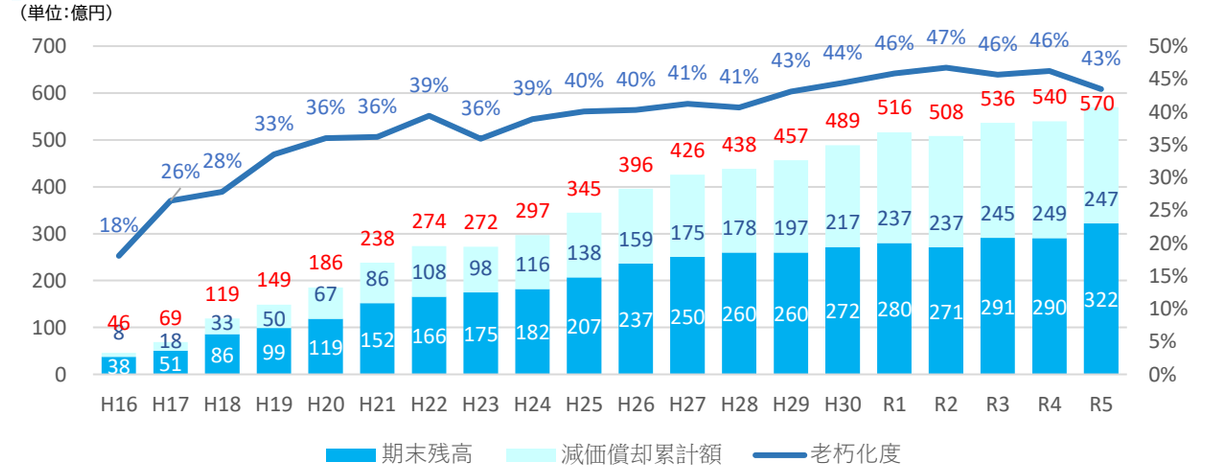


注) 一億円未満は四捨五入しており，
計は必ずしも一致しません。

建物等



備品



損益計算書(P/L)

損益計算書とは、運営状況を明らかにするために、一事業年度におけるすべての費用(教育経費、研究経費等)と収益(運営費交付金収益、学生納付金収益等)とを記載し、報告するものです。

前年度との比較

(単位:百万円)

注) 百万円未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

経常費用	令和４年度	令和５年度	増減	
教育研究経費	2,706	3,018	312	
診療経費	13,700	14,515	815	＊1
教育研究支援経費	453	443	▲ 11	
受託研究費等	1204	1,185	▲ 19	
人件費	17,643	18,084	440	＊2
一般管理費	676	712	36	
財務費用	58	70	12	
経常費用合計	**36,440**	**38,026**	**1,586**	

経常費用に関する特記事項

＊1 診療経費　対前年比＋815百万円:
大型医療機器更新及び電気料高騰による増

＊2 人件費　対前年比＋440百万円:
人事院勧告対応による給与引上げ及び退職手当額増加による増

経常収益	令和４年度	令和５年度	増減	
運営費交付金収益	9,630	10,109	479	＊3
授業料等収益	3,021	3,053	32	
施設費収益	187	261	74	
附属病院収益	20,344	21,601	1,257	＊4
受託研究費等収益	1208	1,357	149	
寄附金収益	974	917	▲ 57	
財務収益	7	9	2	
補助金収益　他	1,745	1,301	▲ 444	
経常収益合計	**37,116**	**38,608**	**1,492**	

経常収益に関する特記事項

＊3 運営費交付金収益　対前年比＋479百万円:
前年度繰越額(退職手当)の収益化による増

＊4 附属病院収益　対前年比＋1,257百万円:
入院患者数の増、高額注射薬の使用割合増に伴う外来診療単価上昇による増

利益の処理

(単位:百万円、百万円未満四捨五入)

Ⅰ	当期未処理利益	
	当期総利益	495
Ⅱ	当期処分額	
	積立金	389
	教育研究環境向上積立金(目的積立金)	106

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書とは、資金の調達や運用状況を明らかにするため、一事業年度の資金の流れを「業務活動」・「投資活動」・「財務活動」の三つの区分に分けて表示し、報告するものです。

(単位:百万円、百万円未満四捨五入)

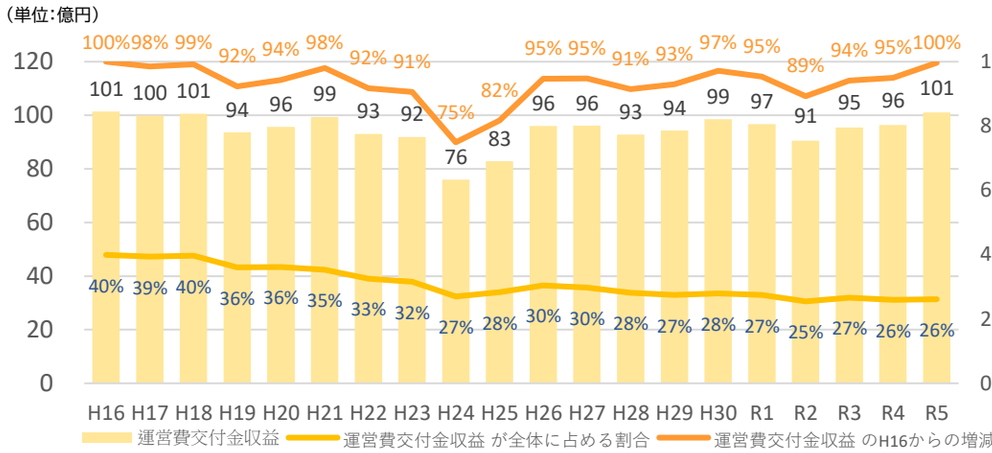
活動区分	R5年度	
Ⅰ 業務活動によるキャッシュ・フロー	3,267	(＋)
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,804	(－)
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲708	(－)
Ⅳ 資金増加額・減少額	▲244	
Ⅴ 資金期首残高	7,583	
Ⅵ 資金期末残高	7,339	

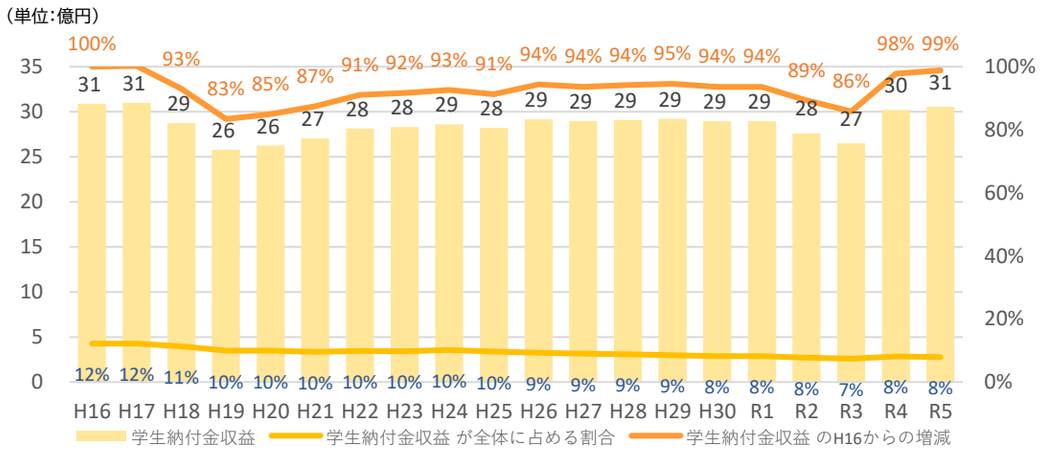
Ⅰ業務活動：プラス計上となり、業務活動が順調に行われたことを表す。

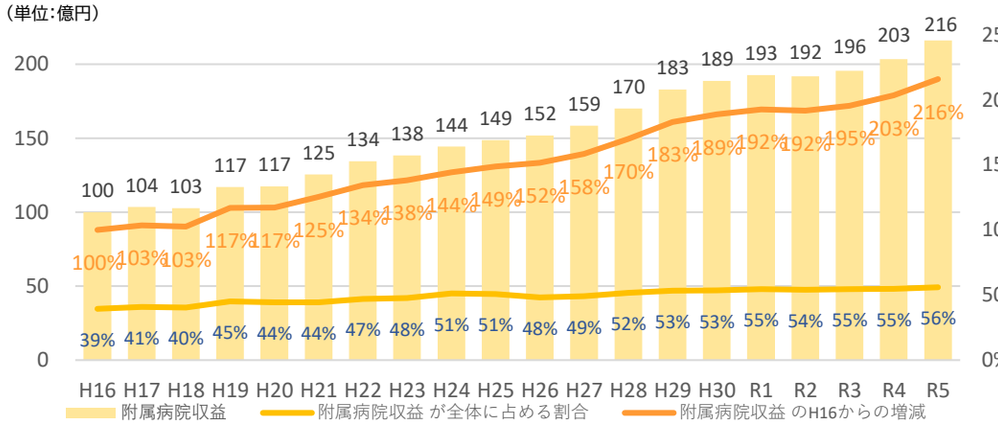
Ⅱ投資活動：固定資産の取得及び有価証券の取得によりマイナス計上となったが、本学が積極的に施設等を更新し、資金を運用していることを表す。

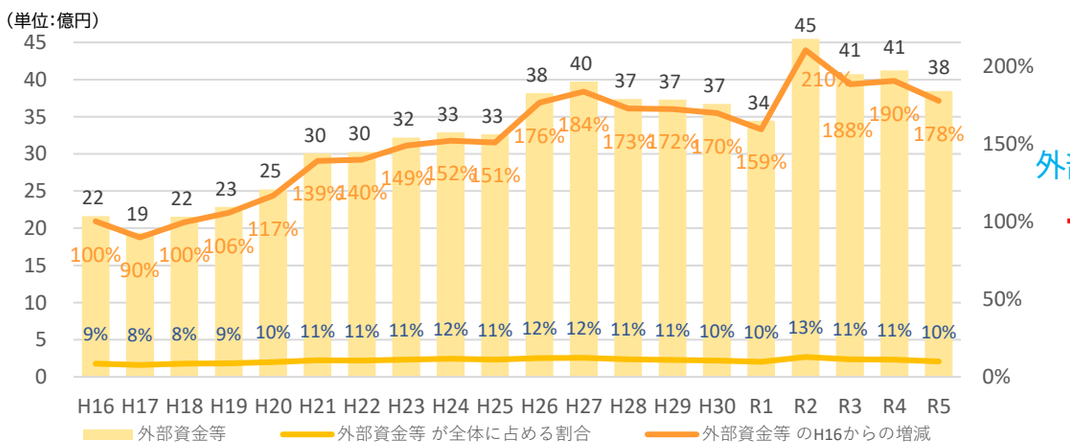
Ⅲ財務活動：リース債務の返済や借入金の返済に伴いマイナス計上となっているが、適正に債務の返済を行っていることを表す。

主要な経常収益が全体に占める割合と推移









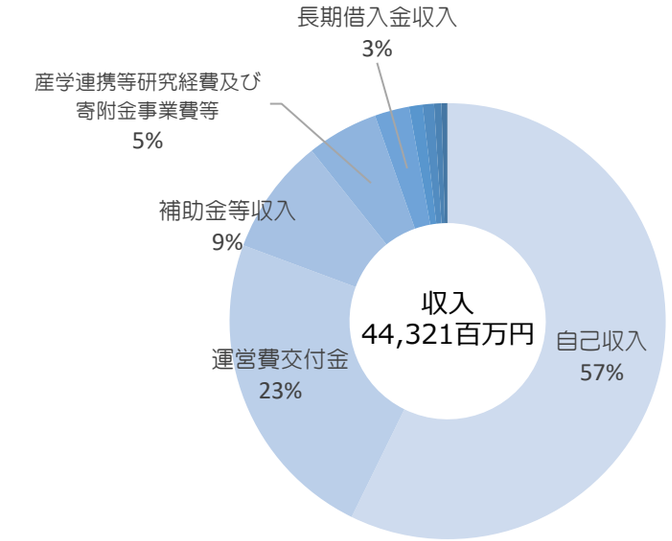
決算報告書

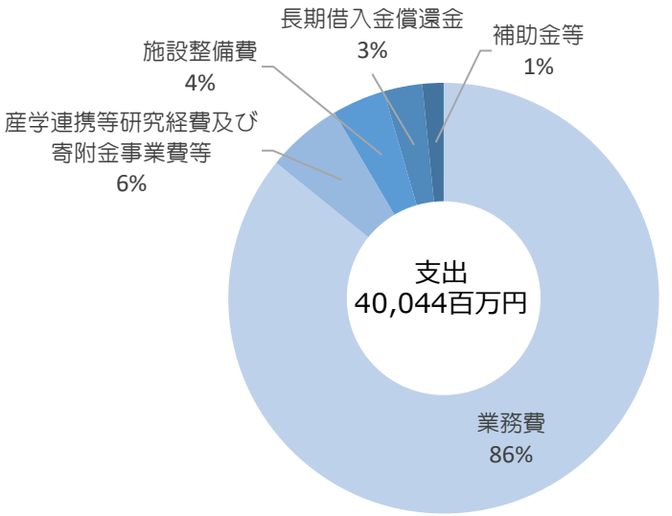
決算報告書とは、国における会計認識基準に準じ、現金主義を基礎としつつ出納整理期の考え方を踏まえ、一部発生主義を取り入れて国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告するものです。

注）単位：百万円，（ ）内は内数です。
百万円未満は四捨五入しており，計は必ずしも一致しません。

区分	予算額	決算額	収支差（決 算 －予 算）
収 入			
運営費交付金	10,099	10,373	274
施設整備費補助金	125	441	316
補助金等収入	979	3,821	2,842
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	14	14	－
自己収入	25,021	25,376	355
（授業料、入学料及び検定料収入）	（2,813）	（2,827）	（14）
（附属病院収入）	（20,868）	（21,403）	（535）
（雑収入）	（1,341）	（1,147）	（▲193）
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,797	2,354	557
引当金取崩	220	241	21
長期借入金収入	1,140	1,140	－
目的積立金取崩	188	188	－
減価償却引当特定資産取崩	420	372	▲48
計	40,002	44,321	4,319
支 出			
業務費	34,912	34,365	▲547
（教育研究経費）	（13,672）	（13,495）	（▲178）
（診療経費）	（21,239）	（20,870）	（▲369）
施設整備費	1,279	1,595	316
補助金等	851	639	▲212
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,797	2,285	488
長期借入金償還金	1,163	1,160	▲3
計	40,002	40,044	42
収入－支出	0	4,277	4,277 *







決算報告書に関する特記事項

＊ 収入-支出額 4,277百万円：
退職給付引当金、賞与引当金増減額 344百万円
外部資金の繰越額 3,129百万円
（受託研究費等・寄附金・補助金）
その他の繰越額 804百万円
（退職手当・医療機器整備事業・施設整備事業等）



公 開 情 報

公 開 情 報 ・ 広 報 誌 の ご 案 内

統合報告書2024は、福井大学の財務・非財務情報から、大学価値の向上に資する重要度の高い情報を集約することで、ステークホルダーの皆様が理解しやすい内容に編集しました。より詳細な情報に関しては、本学ウェブページに掲載しています。

財務諸表の公表について
(https://www.u-fukui.ac.jp/cont about/finance/management09/)

福井大学の特色ある取組
(https://www.u-fukui.ac.jp/cont about/public/pub/distinctive/)

中期目標・中期計画
(https://www.u-fukui.ac.jp/cont about/outline/management01/)

基礎資料
(https://www.u-fukui.ac.jp/cont about/public/pub/material/)

大学案内
(https://www.u-fukui.ac.jp/cont about/public/pub/viewbook/)

環境報告書
(http://ems.ou.u-fukui.ac.jp/iso/d-01.html)

ウェブサイトのご案内

研究に関する情報 ― 研究シーズ情報 ―
(http://www.hisac.u-fukui.ac.jp/seeds/seeds25/top.html)

教育に関する情報 ― 3つのポリシー ―
(https://www.u-fukui.ac.jp/cont about/about/policy/)

国立大学法人ガバナンス・コード
(https://www.u-fukui.ac.jp/cont about/disclosure/management11/governancecode/)